



2017年5月15日

株式会社ツーセル
大塚製薬株式会社

【医薬品】契約締結のお知らせ

大塚製薬とツーセル

第三者割当による募集株式引受および再生医療における連携について

大塚製薬株式会社(本社:東京都、代表取締役社長:樋口達夫、以下「大塚製薬」)は株式会社ツーセル(本社:広島市、代表取締役社長:辻紘一郎、以下「ツーセル」)の第三者割当による募集株式引受に合意しました。また、両社は、ツーセルが行っている中枢神経疾患領域*のヒト間葉系幹細胞(Mesenchymal Stem Cell、以下「MSC」)由来の細胞を用いた治療の研究開発に関して事業化に向けた情報交換を行っていきます。また、大塚製薬は、本領域のMSCを有効成分とする製品の国内での事業化について優先的に交渉できる権利を取得します。

大塚製薬代表取締役社長 樋口達夫は「当社は、中枢神経、がんを最重点領域とした独創的な治療薬の研究開発を行っています。このたびの連携強化が、ツーセル社の再生医療技術による新たなカテゴリーの製品創出につながり、現状の治療法で満たされていない脳梗塞を含む中枢神経領域の治療にさらに貢献できることを期待しています」と述べています。

ツーセル代表取締役社長の辻紘一郎は「要介護0(ゼロ)の社会を実現可能にするため、『軟骨』と『脳梗塞』に対する研究は、私が20年間続けてきた主な研究開発テーマです。このたびの契約締結で、『再生医療によって寝たきりを防ぐ』という目標に大きく近づき、多くの患者さんに貢献できると考えております」と語っています。

これを機に、ツーセルは世界に先駆けた同種(他家)MSCを用いた中枢神経領域*の研究実用化を加速し、大塚製薬とともに事業化を目指してまいります。

*脳梗塞、アルツハイマー病、筋萎縮性側索硬化症を含む、中枢神経の障害を伴う疾患(脊髄損傷を除く)

間葉系幹細胞(Mesenchymal Stem Cell)について

間葉系幹細胞(Mesenchymal Stem Cell:MSC)は、体の再生に役立つ様々な役割を担うことができる体性幹細胞の一つです。間葉系幹細胞は、骨・軟骨・脂肪・神経等の様々な組織の元となる細胞に分化する能力を持つことが知られています。

大塚製薬について

大塚製薬は、世界の人々の健康に貢献する革新的な製品を創造するという「Otsuka-people creating new products for better health worldwide」の企業理念のもと、人々の健康を身体全体で考え、疾病の治癒から日々の健康増進までを目指した「医薬関連事業」と「ニュートラシューティカルズ関連事業」の両輪で、トータルヘルスケアカンパニーとして事業展開を行っています。医薬品関連事業では、世界中の未解決の医療ニーズを満たすため、グローバルに広がる独自のネットワークを活かし、精神疾患、神経疾患、がんを最重点領域とし、循環器、感染症、眼科、皮膚科領域を中心とした医療用医薬品の研究開発を行っています。

大塚製薬に関するさらに詳しい情報は <http://www.otsuka.co.jp> をご覧ください。

ツーセルについて

ツーセルは、2000年～2003年のJSTプレベンチャー事業「骨・軟骨組織の再生療法チーム」を基盤として、2003年に起業した広島大学発のバイオベンチャー企業です。再生医療の普及を目指し、体性幹細胞の一種であるMSCをターゲットとし、MSCを用いた細胞治療製品と、MSC周辺の培養技術や再生医療システムの構築に取り組んでいます。現在、大学・公的研究機関・民間の研究機関・国内外の医療関連企業と連携して再生医療の実現をめざし、開発パイプラインを①膝軟骨再生細胞治療製品、②脳梗塞細胞治療製品、③注射型軟骨再生細胞治療製品とし、基礎研究から治験における研究開発を行っています。これまでに「膝軟骨再生細胞治療製品gMSC®1」（中外製薬株式会社とライセンス契約締結）、「MSC用無血清培地STK®シリーズ（研究用）」（DSファーマバイオメディカル株式会社より発売）の開発を行ってまいりました。

また、事業を推進する中で、JST（国立研究開発法人 科学技術振興機構）、NEDO（国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構）、AMED（国立研究開発法人 日本医療研究開発機構）、経済産業省、広島県、広島市より、多くの支援を頂いております。ツーセルに関するさらに詳しい情報は <http://www.twocells.com> をご覧ください。